



ヤマトカワゴカイ

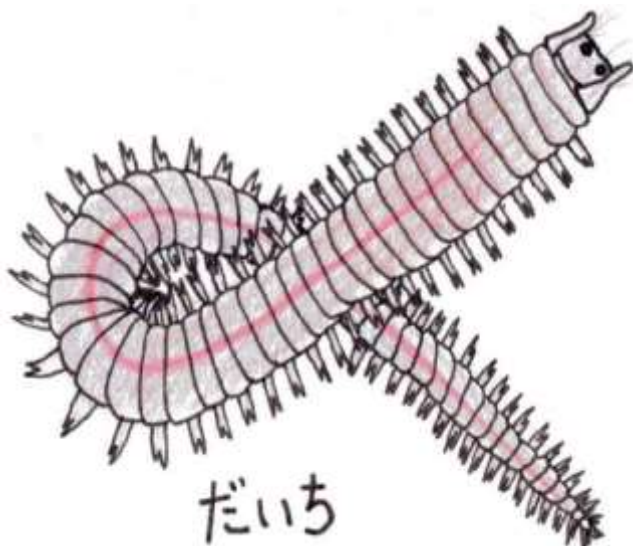
《侍従川との思い出》 (前編) 三浦半島昆虫研究会会長 中村 進一

＜身近な侍従川＞

私の家から距離にして100mほどで侍従川中流域の川岸に出る。川幅はおおよそ20m弱の二級河川である。その傍には私鉄の小さな鉄橋が架かっていて、当時、時折その鉄橋を電車の行き来を気にしながら、ハラハラした気持ちで対岸まで渡った、ちょっと怖い経験をしたことを思い出す。渡った対岸は中学校の校庭の端で、ここが釣り場のポイントになっていた。また、ここから上流へと遡ると、ガマや湿地などに生える草が茂っていたようだが、少年の頃では「遠い」地であり、殆ど行ったことはなかった。従って、今回は上流域のことは触れないで話を進めたい。では、この中流域での思い出を語ろう。

＜生き物たち＞

今から半世紀も前になる1950年代の後半、我が家の前には小さな「ドブ」と言われる生活排水路があり、その流れは他の家庭からの水路と一緒に、やや大きい流れ（幅は大人が手を広げたほど、深さは大人の背丈ぐらい）となって集落を通過して侍従川に注ぎ込んでいた。その流れの護岸は苔が生えた石積みとなっていて、石の隙間にはベンケイガニやアカテガニがいた。幼い頃、そのカニを捕えようとしてアカテガニの赤いツメに挟まれて泣いたことを思い出す。そして、注ぎ口付近まで来るとモクスガニというハサミに



ヤマトカワゴカイ (大和川沙蚕)

英名: *Hediste diadroma*

体長: 10~20 cm

解説: 川の海に接する河口部など、汽水域に生息する。繁殖期には集団で生殖群泳をおこい、ウニヨウニヨと水面を漂う。この姿が、バチ=ゴカイがたくさん抜け出るとい意味からバチヌケと呼ばれる。

佐野 真吾

毛が生えたカニが棲んでいた。子どもの頃、ベンケイガニよりも大きいモクズガニを見て“
かっこいい”と思ったことを今でも覚えている。

当時、生活排水が流れ込んでいた侍従川だが、「汚い」とは思わなかった。
その証拠に、水は澄んでいて、小魚の泳ぐ姿も見られた。そして、何よりもこの侍従川で
泳いだことをしっかり覚えている。川床は岩盤状で底岩には藻が生えていて、所々は泥土
となっていた。

この川では、生き物が豊富で時々近所の人々が投網を投げ、漁をしていた。何の手助けに
もならないが、仲間の子もたちと一緒に遊びがてら手伝いをした。狙いはボウだったよ
うな気がする。また、ハゼなどが釣れ、子どもたち同志で釣り一番を競った。ハゼを釣っ
ているとハゼに混じって同じ大きさの真っ黒いハゼの仲間が釣れた。皆はダボハゼと呼ん
でいて、色が真っ黒なので友達の一部が「悪魔魚」と言ったことを覚えている。

究極は当時この川にウナギがいたことである。小学生だった時に、私は親戚の人に連れ
られて夜釣りをした。夜も深まった頃、その人の釣り竿の先に付けてある鈴が鳴り、竿が
しなった。たまたま、その時に親戚の人は竿の傍に居らず、気が付いた私が慌てて、その
人を呼びに走ろうとした時、竿を踏んで折ってしまった。折れた竿の先は釣り糸のお蔭で傍
の草木に引っ掛かっていた。足早に親戚の人が戻って来て、私を咎めるでもなく手早くそ
の折れた竿を引き上げた。その竿には、今では考えられないが、大きな太いウナギがぶら
下っていて、くねくねと身を振らせていた。ウナギが首尾よく獲れたことよりも、私の
失態を咎めることもなく、「怪我はしなかったか」と労わってくれた親戚の人の優しさを今
でも時々思い出す。

<干潟の思い出>

この川を下っていくと、平潟湾へと繋がっていた。「平潟」と言うようにそこは当時、干潮
になると現れる広い干潟があった。干潟が現れると、そこで獲れるアサリやマテガイそし
てオウノガイ（私の住む近所では、このように呼び正式な名称は解らない）という貝殻が
固く、漆黒色の手のひら大の大きさで、天ぷらに揚げて食べると美々な味がする貝で幾ら
でも獲れた。時期になると、大勢の人が押し掛けて干潟が賑わった。私の隣家のおじさん
は「貝掘り名人」と異名をとった人で、たくさん獲っては、おすそ分けにオウノガイを貰っ
た。山盛りになったザルを持った母を思い出す。

また、この干潟には魚釣りの餌になるゴカイもたくさんいて、人が熊手（アサリなど小貝
を掘るための金具で出来た道具）を片手に干潟の泥土に潜っているゴカイを掘っていた。皆
が中腰姿でゴカイを掘っている動作は遠くから見ていると規則正しい動きをしているコ
メツキガニの行進のようで滑稽に見えた。今は昔で、残念なことに、この干潟も埋め立て
られ、その上に高級な家々が建ち並び住宅地と化した。

(つづく)

トピックス

○当会顧問の高桑正敏さんが、著書『失われた北川湿地～なぜ奇跡の谷戸は埋められたのか？～』を発売しました。

ご購入希望の方はコチラまで→

「http://www.scientist-press.com/11_334.html」

○当会会員の梅田孝さんが、著書『身近なヤゴの見分け方』を発売しました。ご購入希望の方はコチラまで→

「jiropon.ume@jcom.home.ne.jp (梅田)」

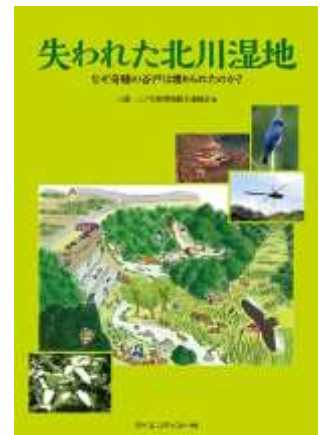
タウンニュースの金沢区版でも紹介されました。

<http://www.townnews.co.jp/0110/2015/12/10/311937.html>

○侍従川で捕獲されたウシガエルを解剖しました。

結果：ウシガエルの胃からは、クモが出てきました。侍従川で捕獲されたウシガエルはクモを捕食していたようです。

※ウシガエルは特定外来生物です。絶対に逃がさないようにしましょう！！



解剖の様子



ウシガエルの胃から出てきたクモ

○金沢いきいきフェスタ

10月17日(土) 海の公園で開催された、金沢いきいきフェスタにて侍従川水族館を展示しました。今井さん一家(康祥、幸子、翔太、はるか)、佐野、金子、深沢、片岡、金沢、柴田、高橋が対応。

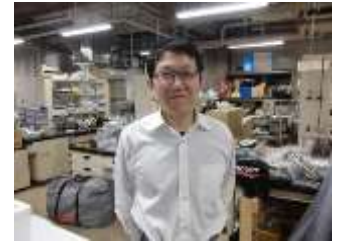


○朝比奈小かいりぼり

11月19日(月) 侍従川の源流の一つである朝比奈小学校のビオトープでかいりぼりをおこないました。

高舟台小学校5年生 環境調査隊 GOGO水質検査隊による侍従川水質調査報告

(協力：関東学院大学 鎌田素之准教授)



①塩分濃度

	源流	上流	中流	下流	河口	海
$\mu\text{S}/\text{cm}$ <small>(マイクロシーメンス/センチメートル)</small>	234	670	755	870	8950	43000

<結果>

- 海に近づくにつれて塩分濃度は高くなっていった。
- 河口で塩分濃度は大きく上昇する。
海水が潮の満ち引きで流れ込む影響。
- それに伴い、海水魚が下流まで上ってくる。

中流	よどみ	排水
755	763	3610

②酸素濃度 (DO)

	源流	上流	中流	下流	河口	海
mg/L <small>(ミリグラムパーリットル)</small>	9.25	9.22	9.45	7.67	7.43	8.15

<結果>

- 中流の酸素濃度が最も高い。
- 下流・河口で酸素濃度は下がった。
流れがおだやかで、水が汚れている影響。
- 海まで行くと、少し回復する。

中流	よどみ	排水
9.45	9.14	8.56

③水の汚れ (COD)

a: 有機物

	源流	上流	中流	下流	河口	海
mg/L <small>(ミリグラムパーリットル)</small>	2	8~10	8~10	8~10	6	6

<結果>

- 源流の水は、有機物が少ない。
- 川を下るにつれて有機物は多くなっていった。
- ただし、河口で有機物の割合は下がった。
海水が潮の満ち引きで流れ込む影響。

中流	よどみ	排水
8~10	8~10	8~10

b : アンモニア・亜硝酸・リン

	源流	上流	中流	下流	河口	海
アンモニア	0.5	1	0.2	0.5	0.5	1
亜硝酸	0.01	0.02	0.05	0.1	0.2	0.2
リン	0.2	0.5	1	0.5	0.1	0.05
合計	0.71	1.52	1.25	1.1	0.8	1.25

数値の上下はあるが、源流と河口の値で大きな差がない。
→侍従川内で汚れを処理できている。

a : 有機物

有機物の量 = 分解するために使う酸素の量

有機物	源流	上流	中流	下流	河口	海
mg/L <small>(ミリグラムパーリットル)</small>	2	8~10	8~10	8~10	6	6
酸素濃度	源流	上流	中流	下流	河口	海
mg/L <small>(ミリグラムパーリットル)</small>	9.25	9.22	9.45	7.67	7.43	8.15
分解	◎	○	○	△	◎	◎

数値の上下はあるが、源流と河口では、確実に有機物を分解できている。
→侍従川内で汚れを処理できている。

<まとめ>

場所によって、汚れの多い少ないはあるが、川を流れる水には、十分な酸素があり、源流と河口の水は、どちらもとてもきれいである。

→侍従川内で汚れを処理できている。

☆侍従川は環境のバランスが良い川。

◎10/28 (土) 高舟台小学校なかよしフェスティバルにて、5年生「環境調査隊」が、総合的な学習の時間で、侍従川の取り組みについて発表しました。発表内容は、魚類相や歴史、外来種問題や絶滅危惧種、そして水質など、子どもたちが体験し、調べたことをまとめたものでした。水質は関東学院大学 鎌田素之准教授の指導の元、調べられました。高舟台小学校5年生の皆さん、お疲れ様でした。鎌田先生ご協力ありがとうございました。

はぜ釣り大会

9月19日(土) 9:00~

【活動報告1】

今井幸子

今年、初めてハゼ釣り大会に参加しました。

去年の通信を読んだときに「200匹以上釣った(食べた)…」と書いてあって、「そんなに釣ったら侍従川のハゼがいなくなっちゃうんじゃないのかな?」と心配していましたが、そんな心配は要らなかったようで、今年もたくさんの魚が釣れていました。娘のはるか(小1)の釣り竿の仕掛けが良いのか釣っている場所が良いのか、爆釣していて大満足♪「楽しかった!」と大喜び。息子の翔太(小4)も「魚が美味しかった!!」と嬉しそうに話していました。

高学年の女の子が、《わたしの魚》と大切にさばいて料理される間も紛れてしまわないように見張っている姿が微笑ましかったです。楽しそうに釣って料理する子どもたちを見ながら、地元鶴見でもこの体験を子どもたちにさせてあげられないかとしみじみ思った会でした。

侍従川ハゼ釣り大会2015 優勝者

山下拓晃

居細工だいき

ともに32匹

おめでとうございます!

ハゼ釣り大会の感想

はじめなかなか釣れないかなと思ったけれど、小さい魚も少し大きい魚もたくさん釣れてうれしかったです。川に入ったり、美味しい天ぷらを食べてとても楽しかったです。

(白石想也)



9月定例クリーンアップ

【活動報告2】

9月27日(日) 13:10~14:30 曇り 26℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、石塚正夫、石渡博、村田章夫、河本充雄、山田陽治、飯田徹哉、菊池宏紀、菊池栄美、菊池悠紀、菊池光成、浦なつこ、浦信たろう、寺西たか子、金子英司、深沢大地、小野田幸介、小野田勇介、内山美ゆう、細川一雄(計22名)

当日朝は雨がぱらついていましたが、午後は曇りになるとの天気予報でしたので、開始時間を遅らせて午後1時スタートにしました。急な変更で大丈夫かなと心配しましたが、22名の参加がありホッとしました。また、前日に治水事務所が大道橋~二の橋間の草刈りを実施していました。

暑さ寒さも彼岸までの言葉通り、秋分の日を4日過ぎた当日は暑くも寒くも無く絶好の作業日和でした。いつもの通り、子どもたちは下流へ、大人たちは上流に別れて作業を分担しました。地藏前橋から川に降りて伸びすぎた草を切り、セイタカアワダチソウを引っこ抜きながらゴミを拾います。先月も沢山引っこ抜いた横浜屋前の部分のセイタカアワダチソウがまた沢山伸びていました。花が咲く前に何とか引っこ抜き種が出来ないようにしました。

大道橋を越えて、草刈りされた場所に行くと今まで気がつかなかったガラス片が沢山見つかりました。子どもたちが川に入って怪我をすると大変ですので、小さなガラス片も見逃さない様にしっかり拾いました。皆から大分遅れてちとせ園に着くと下流部の子どもたちはすでに上がっていて、捕まえた生き物を水槽に入れて水族館を作っていました。山田さんが生き物の説明をしている間に、横浜屋で冷たい飲み物とお菓子を買って皆で喉を潤おした後解散しました。今回は終了後に秋刀魚を焼いて食べようと思いましたが次回に延期しました。



青木橋下流右岸の赤錆(赤土)



大道橋上流の草刈り風景



一休みしようか？



回収したゴミ(土のう袋5袋分)

10月定例クリーンアップ

【活動報告3】

10月25日(日) 9:00~11:00 晴・強風 20℃

朝比奈橋～大道橋～大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者:長野政治、西澤博厚、角田繁、村田章夫、石塚正夫、石渡博、八木場紀元、外川忠志、寺尾勝廣、山田陽治、関東学院大学の二宮咲子・金田晴美両先生と関東学院大学人間デザイン環境学科の学生23名、小宮彩、小宮一葉、小宮涼真、田村優樹(大道小教員)、鷺谷泰子(大道小教員)、今井康祥、今井幸子、今井翔太(小4)、今井はるか(小1)、徳永宗介、徳永哲郎、徳永琉平、海保宏美、海保結登(小2)、渡部亜矢、渡部鷹(小2)、渡部蓮(小2)、加藤育子、加藤賢太郎(小2)、加藤慎二郎(5歳)、中村健二、金子英司、深沢大地、小野田幸介、小野田勇介、高橋一太(小5)、細川一雄(計62名)



ブックオフ下の清掃風景



青木橋上流の草刈り風景



回収した水中ポンプ?



回収したCD・DVD? プレイヤー



回収した10袋分のゴミとベビーバス

当日は快晴でしたが、木枯らし1号が吹いてちとせ園の桜の枝も大きく揺れていました。今年も関東学院大学 人間デザイン環境学科の二宮先生と金田先生が23名の学生を引率して参加してくれました。さらに寺尾さんもボーイスカウトの子どもたちを連れて参加してくれました。また、大道小学校教員の田村先生と鷺谷先生も参加してくれましたので、今回の参加者数は62名と、今迄で最大の人数になりました。

参加人数が多いことと、大潮に近い中潮のため大分潮が引いていましたので、今回は下流域の活動範囲を汐見橋近くまで広げました。関東学院の学生さんたちは予め5班に分けられていましたので、3班は下流域を、2班は上流域を、また子どもたちはいつもの様に生き物の多い中流・下流域を担当してもらいました。

川の上から見た限りではそれほどゴミは落ちていないと思いましたが、実際に川に入ると、予想以上にゴミが多く10袋分もありました。水中ポンプやCD・DVD?レコーダーなど重たい物も引き上げ、外川さんにゴミ置き場まで車で運んでもらいました。その後子どもたちにはお菓子と飲み物をプレゼントし、また、秋刀魚を焼いて食べて一息入れて解散しました。

11月は多くの生き物が姿を隠す寂しい月です。侍従会も唯一と言っていいイベントオフシーズン、毎年この月は活気のあるイベントがほとんどありませんでした。そんな中初めて開かれた生きもの自然撮影講座。さのしん主導で写真撮影の極意を教えてくださいました。

当日はあいにくの天気、前日まで雨が降り続き、当日も雲行き怪しく当初の予定とは違い室内メインでの撮影会と成りました。参加者は13人ほど、参加者が集まるとまずは当日の流れの説明、内容としては写真の撮り方講座、実際の写真撮影タイム、最後に各々撮った写真を発表しコンテストを行います。コンテストと聞くとすかさず「すごいのを自分が撮ってみせる」と山田さんが言い始めました。

早速、さのしんに写真の撮り方講座をしてもらいました。カメラの種類の説明から、構図の撮り方、置きピンの方法、ピントの合わせる場所、シャッタースピードと絞りの解説まで詳しく説明をしてもらいました。講座が終わると、各自のカメラで思い思いに生き物や人、風景の写真を撮りました。基本的には大道小学校内で被写体を探しつつ、佐野家と今井家から持ってきた生き物も撮影の対象となりました。そんな中、山田さんと、私は学校を抜け出し侍従川へ水鳥を狙って赴きました。泥牛橋を過ぎたあたりからカモが姿を現し、コサギやアオサギを見つけることができました。アオサギが飛び立つ瞬間、山田さんから「あっ、飛ぶ、ああ…うまく撮れなかった」と残念そうな声が聞こえてきました。撮影の時間が終わるとそれぞれが気に入った写真を一枚選びみんなの前で発表しコンテストをしました。蜘蛛の巣を撮った人、鏡を利用してハート型のトカゲを撮った人、元気よくジャンプする一太くんを撮った人と色々な人がいました。ところで山田さんはすごいのが撮れたのでしょうか？やまださんが発表したのは立ち姿のアオサギでした。

さて、私はというと、侍従川に行った際、山田さんが「あっ、飛ぶ」という一言を聞き逃しませんでした。すかさずシャッタ



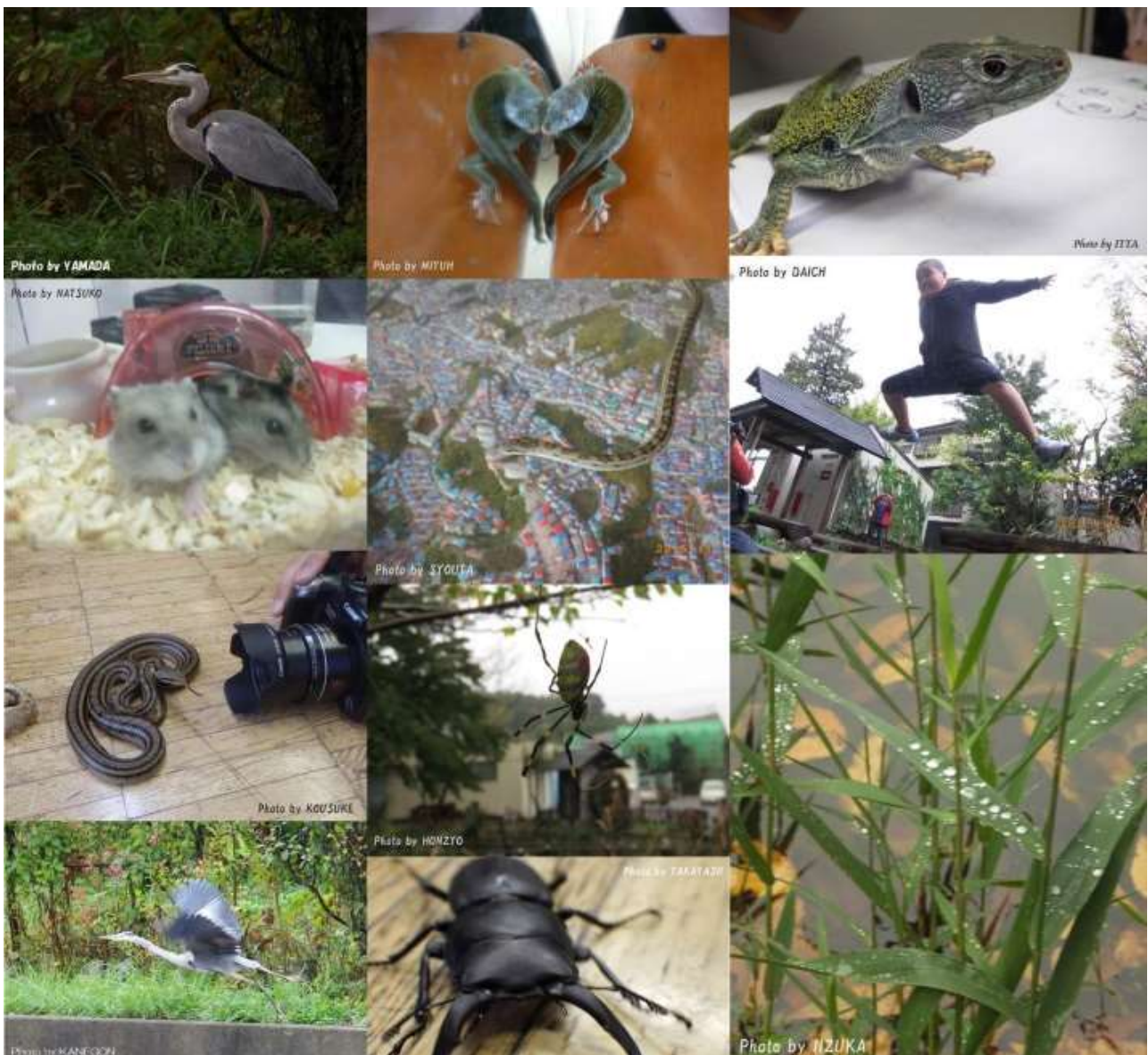
ーを切った私のフレーム内にはしっかりと飛んでいるアオサギが捕らえられているではありませんか。これはこの写真をコンテストでは発表するしかないかと内心喜んでいました。おかげさまでコンテストに優勝することができたのですが、同じ被写体を狙った山田さんの一言が無ければ撮りのがしていたので少し複雑な思いでした(笑)



コンテストも終わり、コミュニティハウスの片付けも終わると、もう一度写真を撮りに外へ行くことになりました。侍従川沿いに歩きつつ思い思いに写真を撮ってゆき、最後にみんなで集合写真を撮り、今回の生きもの自然撮影講座は終了となりました。

個人的にはたいへん楽しく活動することができました。今後、同様のイベントを季節ごとに行うことができれば、その都度みんなで撮った写真を追加していき、侍従川沿いの生き物図鑑など作れたりして面白かなと思いました。

みんなが撮った写真



11月定例クリーンアップ

【活動報告5】

11月22日(日) 9:00~12:00 曇り 18℃

朝比奈橋~大道橋~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、村田章夫、石塚正夫、石渡博、八木場紀元、関場俊子、森泰世、山田陽治、飯村優介、徳永宗介、徳永彰子、徳永哲郎(小1)、徳永琉平、今井康祥、今井翔太(小4)、菊池栄美、菊池悠紀(小3)、菊池光成(4歳)上原智江、上原晶、金子英司、深沢大地、高橋一太(小5年)、中村健二、井上奏人(小5)、吉田啓人(小5)、葛西海虎(小5)、大木和海(小5)、藤田日菜子(小5)、御調彩香(小5)、山崎愛莉、葛西幸子、蕭翔育、細川一雄(計36名)

もうすぐ寒い冬が近づいてくる11月後半ですが、今年の11月は例年より暖かいようで気温も14℃とそれほど寒くありませんでした。とは言え、ちとせ園の桜は殆どの葉が紅葉して落ちてしまい間違いなく冬に向かっている事を実感させてくれます。今回は11月28日の発表を控えた高舟台小学校の5年生が6名、発表内容の最後の確認のために参加してくれました。

いつもの様に、大人組はごみ拾いと伸びすぎた草の刈り取りのため上流域に、子どもたちは清掃と生き物採取のために下流域に分かれて活動開始です。上流域は大きなごみやペットボトル、缶などは殆ど無く大半はプラスチックごみでしたが、下流域は傘やスチールのパイプなど大きなごみが目立ちました。

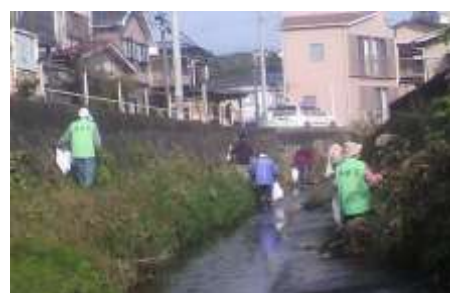
子どもたちが拾ってくれたごみを纏めると8袋分のごみになりました。毎月清掃活動を実施していますが、なかなか思うようにごみは減らないものです。また、今回は大きなハゼが沢山採れましたので、参加した子どもたちは夫々家に持ち帰ってもらいました。



出発前のちとせ園の風景



朝比奈橋下流(伸びすぎた枝を切ってます)



大道橋上流の清掃風景



回収した8袋分のごみ(傘やパイプ等)

寒さも一段と厳しくなってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

大道小学校のトンボ池と正門池には、落ち葉がたくさん見られ、冬到来を知らせてくれています。そんな中、ハス池の横にあるプラ船ビオトープでは、メダカが寒い中でも元気よく泳いでいます。自然の中で生きるたくましさと絶えず泳ぎ回るかわいさに毎朝癒されています。

12月となり、大道小学校の環境活動もややお休みになってきましたが、子どもたちの思いを大切に活動を進めています。

生きもの水族館入口にポスター設置

10月に行われた大道小学校と侍従会のみなさんとの打ち合わせで、大道小学校の児童にも侍従会の活動を知ってもらえるように、生きもの水族館前（エコルーム）の壁に定例クリーンアップの案内と学生部の調査報告を掲示しました。3年生が侍従川について総合的な学習の時間で学習をしていたので、廊下を歩いていると立ち止まる児童もみられました。少しずつ更新しながら子どもたちの目にとまるきっかけになってもらえたら嬉しいです。

菜の花を全校で育てています！

3月の卒業式に向けて、全校で菜の花を育てています。登下校の前に水やりをしたり、虫をはらったりと菜の花の成長のために一人ひとりが気にかけています。毎週水曜日には、学校エコアップ栽培委員会の児童がお昼の放送で菜の花の成長の様子を伝える「菜の花ニュース」を始めて、全校のみんなにもっと菜の花の成長に興味をもってもらえるような工夫にも取り組んでいます。

トンボ池の前ですくすくと育っているので、来校された際にはぜひご覧ください。



3月の卒業式に向けて、大道っ子全員で大切に育てます！

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ サカモトサワガニ ～



沖縄本島産

学名：*Geothelphusa sakamotoanus*

甲幅：44mm前後

分布：沖縄本島、徳之島、奄美大島、喜界島、宝島（トカラ列島）

河川の中流域から上流域に生息する純淡水産のカニで、甲羅の大きさは4センチ以上にもなります。琉球列島に生息するサワガニ科のカニでは最も広範囲に生息していて、各島で大きさや色・形、生態に変異があります。まだ研究が進んでいない生き物なので、将来各々が別種として扱われるかもしれません。沖縄島産は水質の汚染に強く、都市部の下水域でも生活することができます。本州ではサワガニは1種類しか知られていませんが、沖縄本島で5種類、琉球列島では10種類以上のサワガニが生息しており、続々と新種が見つかっています。



奄美大島産



喜界島産

監修：熊井（沖縄在住）

佐野真吾が語る侍従会の思い出

～侍従川流域の七不思議 後編～

侍従川流域はご存知の通り、横浜市・鎌倉市・逗子市・横須賀市という4市の境目に位置しています。また、流域の森は池子米軍基地や鎌倉、円海山とも隣接する広大な朝比奈の森があり、他にも大道中学校の裏山や六浦町のお伊勢山など緑地に囲まれています。私は一時期そんな侍従川流域をくまなく歩こうと探検した時期がありました。その時間いたり見たりした侍従川流域に伝わる都市伝説や隠された秘密のスポットを佐野真吾が選ぶ七不思議として紹介する後編です。

秘密トンネルの謎

「侍従川流域には秘密の地下トンネルがいくつも存在する!？」そんな都市伝説が昔からありました。私が子どもの頃聞いたのは、嘘か本当か分かりませんが(たぶん嘘)、朝比奈の森から横須賀米軍基地まで続く秘密トンネルがあり、その正体がばれないように、旧日本軍が大量のマムシを放った! なんていう都市伝説です。子どもの頃、仲間たちと秘密トンネルを探しに行ったものです。しかし、それから15年以上が過ぎたある日、元侍従会学生部3代目部長で、現在六浦の居酒屋Nuuで働くシュウヘイクンがとんでもない話をしてくれたのでした。

とある夜、駅で偶然出会ったシュウヘイクンに、「佐野くん! 面白い話があるよ! 今スマホに送るから見てみて!」と言われました。早速見てみると、それは侍従川流域の各所に点在する秘密トンネルを探検した人のブログでした。ブログには写真付きでトンネル内の様子が投稿されていました。「俺もこのブログ見て、探しに行ってみたんだよ! そしたら2か所は見つけれられたよ! 本当にあつたよ!」。そうです。秘密トンネルは実在したのです。秘密トンネ



ルは旧日本軍が造ったもので、確かに侍従川流域各所に存在したのです。でも確かに、思い起こせば、トンネルの入り口のような場所が他にもたくさんあることを思い出しました。きっとまだまだ見つからない秘密トンネルはたくさんあるのかもしれないね。今度一度探検しに行ってみたいと思っています。

幻の池

侍従川流域にはいくつかの知られざる幻の池があります。例えば六浦や大道にあったという池です。これらはかつて農業用のため池として使われていたそうですが、現在は埋め立てられてしまって存在しません。また、六浦と逗子市の境にも幻の池があるのをご存じでしょうか。八景苑と道路の間が谷になっていて、そこが池になっているのです。タカネトンボなんかがいそうな雰囲気なのですが、一度行った時には何も見つかりませんでした。また、最近では朝比奈インター近くにできた幻の池があります。この池は、以前は沢だったのですが、何かが原因で堰止まったのでしょうか。現在はリスアカネやタカネトンボが稀に出現する池となっています。

ワンニャン婆さん

これは今から数十年前、私が産まれる前の話です。私も人から聞いただけなので、どこまで本当の話か分かりません。昔、朝比奈と鎌倉の境にある朝比奈峠に犬や猫をたくさん飼っているお婆さん住んでいたそうです。お婆さんは一人暮らしで、犬や猫をたくさん飼っていたことから「ワンニャン婆さん」と呼ばれていたそうです。しかし、ある時、ワンニャン婆さんの姿が見えなくなり、亡くなったのではないかと噂が流れました。そして、それと同時期に野良犬や野良猫が増え、ワンニャン婆さんが飼っていた犬猫たちが逃げたのではないかと噂になりました。特に餓えた犬たちは狂暴で、峠を越える人や車に襲い掛かったそうです。それから1年後、近くの沢で老婆の白骨化した遺体が見つかったそうです。そしてその遺体はワンニャン婆さんのもではないかと噂されました。しかし、たった1年で白骨化するものでしょうか。もしかしたら飼っていた犬たちに食べられてしまったのかもしれない…噂は噂を呼び嘘か本当か誰にも分からないまま侍従川流域の町に広まりました。

さて、話は現在に戻ります。このご遺体が見つかった沢こそ、前の話で書いた、朝比奈の幻の池がある場所なのです。そして、私たちは、突然できた幻の池をワンニャン婆さんに因み「ワンニャン池」と名付けたのです。

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』 つづく

朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

早い秋雨の訪れは、夏枯れの森きのこたちをめざまさせた。

ベニタケ科、イグチ科、テングタケ科などが九月は大盛況。

ヤマドリタケモドキ、タマゴタケなどおいしいキノコもにぎわい、海辺のクロマツにアカハツも出る好況ぶり。

山梨方面に沢登りにでかけて、マイタケ、ホンシメジ、シャカシメジと大当たりして、舞い踊る気分下山したことも。

10月上旬に朝比奈のウラベニホテイシメジ、クリフウセンタケが発生してやや早めの中秋の楽しみとなった。その後4週近く少雨乾燥で、きのこ休眠になりかけたが、11月のさざんか梅雨の訪れでシイタケやムラサキシメジなど晩秋のきのこの始まりとなる。



マイタケ



ホンシメジ、シャカシメジ



ウラベニホテイシメジ



虫のきょういく座談会 ～ハイテンションな大物虫屋は侍従川っ子～



何年か前の話である。佐野は侍従川の下流域にある、とあるお家を訪ねた。

ピンポン

中村「おお佐野くん入って入って！」

ハイテンションで出迎えてくださったのは、今回のダボハゼ通信で「私が子どもだった頃」を書いてくださった中村進一氏である。知る人には言うまでもないが、中村氏は県下では五指に入るであろう有名な蝶類の研究家である。三浦半島昆虫研究会では会長をされ、神奈川県レッドデータブック(2006)では蝶類のページを担当されている。

中村「メシできるまで、虫見たいでしょ？(笑)」

佐野「見たいです☆」

と、こうして2階の一室をまるまる使った標本室に案内してくださった。中村氏は、侍従川流域で育ち、現在も在住されている超純粋な侍従川っ子である。そのため佐野は、編集長の河本氏に「誰か書いてくれる人いないかなあ？」と聞かれた時から中村氏のこと

頭に浮かんでいたのである。

佐野「中村さん、今侍従川の会の会報で『私が子どもだった頃』というコーナーをやっているんですけど、中村さん書いてもらえませんか？」

中村「おお！ いいよいいよ！ 確か高桑さんも入ってるんだよね？」

佐野「はい！ 高桑さんには会の顧問になっていただいています。」

中村「そうか！ じゃあ高桑さんの後に書くよ！」

佐野「高桑さんにはちょうど今書いていただいているところなんですよ☆」

侍従会顧問の高桑氏と中村氏は六浦中学校時代の先輩後輩にあたるそうだ。かつての六浦中学校生物部は、今でいう強豪校だったに違いない。

こうして、中村氏には、この時執筆の願いをしたのだが、それからずいぶん月日が経ってしまった。そして2015年10月、佐野はこの日、中村氏が働いている金沢区内の小学校を訪れたのであった。

中村「おお佐野くんありがとありがと！ 入って入って！」

中村氏はいつもの通りハイテンションであった。

佐野「ビオトープはどうなりましたか？」

中村「まあまあまずは中で麦茶でも飲んでから☆」

2014年から小学校のビオトープ整備のために呼んでくださり、それから当学校にはちよくちよくお邪魔している。

中村「見て見て佐野くん！ 新しい用務員さん、すごい美人でしょう☆」

佐野「中村さん嬉しそうですね！（笑）」

中村「そりゃ美人と一緒に仕事できるのは嬉しいでしょお！ ねえ？ ☆ ワリワリ」

用務員さん「いやそんなことはないです！ はははは（笑）」

中村「佐野くんがいいと思って紹介しようと思ってただけど、佐野くん結婚しちゃったからあ～今度奥さん連れてウチに遊びに来てよ！ ワリワリ」

本人がいてもお構いなしにハイテンションの中村氏である。そのうち話はいつもの通り虫の話題へ移っていった。

中村「三浦半島昆虫研究会の会誌の名前にもなってる『かまくらちょう』って、あれはアゲハチョウを意味する金沢区の方言だったの知ってる？」

用務員さん「金沢区に方言があるんですか？」

佐野「金沢弁ってやつですよ？ でもかまくらちょうの意味は知りませんでした。」

中村「俺たちが子どもの頃は、かまくらちょうって言うのはクロアゲハみたいな黒い翅を持つアゲハを指した方言だったんだけど、もう少し前の人たちは、ナミアゲハとかキアゲハとかも含んで、アゲハチョウ科全体をかまくらちょうって言うんだよね。」

用務員さん「へえ〜」

金沢区の虫の方言とは非常に興味深い話である。この話に感心した佐野は、ふと忘れていた侍従会会報の「私が子どもだった頃」を思い出したのである。

佐野「そういえば、中村さん！ 前にお話した侍従会の会報のことなんですが！」

中村「えっとなんだっけ？」

佐野「侍従会の会報に子どもの頃の思い出を書いていただきたいのですが？」

中村「ああ！！ ちょっと待って、今、査読とか他の執筆とかいろいろあってバタバタしているから、期日とかあったらおしえてもらえる？」

中村氏はお忙しそうだったが、無理を言ってお願いをしてしまった。それが今回から2回に渡って連載される中村進一氏の「私の子どもだった頃」である。中でも個人的に興味深かったのはオウギガイと呼ばれる手のひら大の黒い貝の話である。オウギガイとは恐らく外来種ホンビノスガイのことだろう。1950年代からホンビノスガイが侍従川にいたという貴重な知見である。

さて、話を戻そう。この日、ビオトープについての話は終わり、佐野は岐路についた。帰り際用務員さんが、

用務員さん「中村さんって面白い方ですよ〜」

佐野「あははは（笑）昆虫界では大御所ですよ！」

用務員さん「へえ〜」

そしてそれが聞こえてか聞こえてないかわからないが、

中村「じゃっ！ 佐野くん今日もありがとね！ またいつでも遊びに来てね☆ ○○さん（用務員さん）も佐野君に会いたがってるからね！ ワリワリ（笑）」

用務員さん「えっ！ いや、あっ、はい！ お待ちしてますっ！（汗）」

中村さん、新しい用務員さんが美人だからって、無茶ブリばかりして遊ばないでください…（笑）

（おわり）



侍従川定例調査報告 学生部

9月27日(日) 曇り時々れ

【下流域～中流域】 泥牛橋～大道一丁目緑地

【貝類】 イシマキガイ、カワニナ

【昆虫類】 アジアイトトンボ(成虫)、コヤマトンボ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)

【甲殻類】 ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ

【魚類】 ボラ、マハゼ、シマヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ビリンゴ、チチブ

【鳥類】 カルガモ、アオサギ



10月25日(日) 9:00～11:00 晴れ

【下流域】 大道東橋～汐見橋

【クラゲ類】 ミズクラゲ(死骸)、タテジマイソギンチャク

【貝類】 ホソウミニナ、イシマキガイ(大道東橋付近のみ)、マガキ

【甲殻類】 フジツボの仲間、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、チチュウカイミドリガニ

【魚類】 ボラ、マハゼ、ウロハゼ、ビリンゴ、チチブ

【中流域】 大道東橋～大道一丁目緑地(ちとせ園)

【貝類】 カワニナ

【昆虫類】 ハグロトンボ(幼虫)、コオニヤンマ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、アメンボ

【甲殻類】 ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ

【魚類】 ボラ、マハゼ、シマヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ビリンゴ、チチブ

【鳥類】 カルガモ

備考：関東学院二宮ゼミの学生、ボーイスカウト、大道小学校3年生の先生方も参加していただきました。



関東学院二宮ゼミの学生さんたちの水質調査(パックテスト)の様子

11月22日(日) 9:00~11:00 曇り

【中流域】泥牛橋(下流域)~大道一丁目緑地※ちとせ園・二の橋

【貝類】イシマキガイ、カワニナ

【水棲昆虫類】ハグロトンボ(幼虫)、コシボソヤンマ(幼虫)、ヤマサナエ(幼虫)、シオカラトンボ(幼虫)

【甲殻類】ミゾレヌマエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ

【魚類】コイ、ボラ、マハゼ、ウロハゼ、シマヨシノボリ、ビリング、ウキゴリ、スミウキゴリ、チチブ

【鳥類】カルガモ、ヒドリガモ、コサギ、アオサギ、ハクセキレイ

備考：高舟台小5年生有志が、11/28なかよしフェスティバルでの侍従川の発表の準備のために、聞き取りや生きもの採集に来ました(川掃除もしました)。



ウキゴリ

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆1月~3月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ 1/24(日)、2/28(日)、3/27(日)

9時~12時 ちとせ園集合 ※雨天延期…翌土日曜

持ち物：川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人) ※川の上からの参加でも構いません

☆1/31(日) ネイチャークラフト教室

☆3/27(日) 子ども会議(予定)

※詳細はホームページ及びメーリングリストで

■学生部の活動は追ってお知らせします。

会のホームページはこちら→
<http://jijyukai.web.fc2.com/>
会報をカラーで見ることができます。

《編集後記》 高舟台小5年生の水質検査隊の調査報告は全22ページのプレゼン資料からなる素晴らしいものでした。抜粋(4~5ページ)しか紹介できないのが残念ですが、結論の「侍従川は環境のバランスが良い川」というのがよく分かっていただけるのではなにかと思います。(MK)

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局

金沢区六浦5-23-26

長橋 輝明

TEL : 080-7697-8181

e-mail : sunhearts21@gmail.com